

特別の教科 道徳の指導における I C T の活用について

道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、**よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。**

内容項目

小

A 主として自分自身に関すること

〔善悪の判断, 自律, 自由と責任〕 〔正直, 誠実〕 〔節度, 節制〕 〔個性の伸長〕 〔希望と勇気, 努力と強い意志〕 〔真理の探究〕

B 主として人との関わりに関すること

〔親切, 思いやり〕 〔感謝〕 〔礼儀〕 〔友情, 信頼〕 〔相互理解, 寛容〕

C 主として集団や社会との関わりに関すること

〔規則の尊重〕 〔公正, 公平, 社会正義〕 〔勤労, 公共の精神〕 〔家族愛, 家庭生活の充実〕 〔よりよい学校生活, 集団生活の充実〕 〔伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度〕 〔国際理解, 国際親善〕

D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること

〔生命の尊さ〕 〔自然愛護〕 〔感動, 畏敬の念〕 〔よりよく生きる喜び〕

内容項目

中

A 主として自分自身に関すること

[自主, 自律, 自由と責任] [節度, 節制] [向上心, 個性の伸長] [希望と
勇気, 克己と強い意志] [真理の探究, 創造]

B 主として人との関わりに関すること

[思いやり, 感謝] [礼儀] [友情, 信頼] [相互理解, 寛容]

C 主として集団や社会との関わりに関すること

[遵法精神, 公德心] [公正, 公平, 社会正義] [社会参画, 公共の精神] [勤労]
[家族愛, 家庭生活の充実] [よりよい学校生活, 集団生活の充実] [郷土の伝統と文
化の尊重, 郷土を愛する態度] [我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度] [国際
理解, 国際貢献]

D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること

[生命の尊さ] [自然愛護] [感動, 畏敬の念] [よりよく生きる喜び]

目標

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

道徳的判断力

道徳的心情

道徳的実践意欲

道徳的態度

道徳性を
構成する
諸様相

一人一人の児童（生徒）が道徳的価値を自覚し、自己の（人間としての）生き方についての考えを深め、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況で、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような**内面的資質**

目標

学校教育における道徳性の捉え方

道徳的判断力

それぞれの場面で善悪を判断する能力

道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

道徳的実践意欲

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き

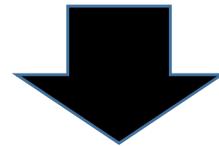
道徳的態度

道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、**よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値**についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める**学習**を通して、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。**

答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の子供たちが自分自身の問題と捉え、向き合う、「**考え、議論する道徳**」への転換、「**主体的・対話的で深い学び**」の視点からの改善が求められる。



道徳的諸価値
についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習



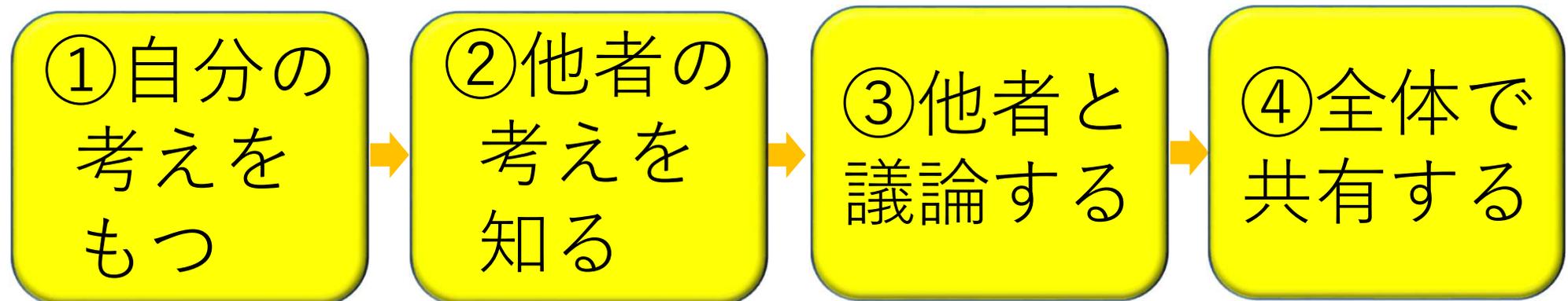
学習がより効果的に行われるようにするための手段として **I C T**の活用

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、**道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習**を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

多面的・多角的に考える

「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、**自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える。**

※多面的・多角的に考える過程の例

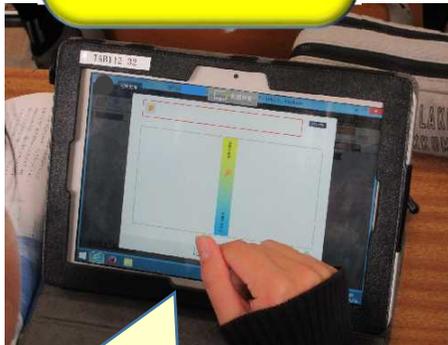


どの学習場面でどのように**端末**を活用すると効果的か？

多面的・多角的に考える

「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、
自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える。

①自分の
考えを
もつ



①「規則の尊重」と「親切、思いやり」との、**いずれの立場を重視するかについて自分の考えを選択し端末に入力する。**

②他者の
考えを
知る



②**端末で他者の考えを知る。**

③他者と
議論する



③相互の考えについて根拠に基づき、議論する。

④全体で
共有する



④**端末に入力した全体の考えを共有し、振り返る中で考えを深める。**

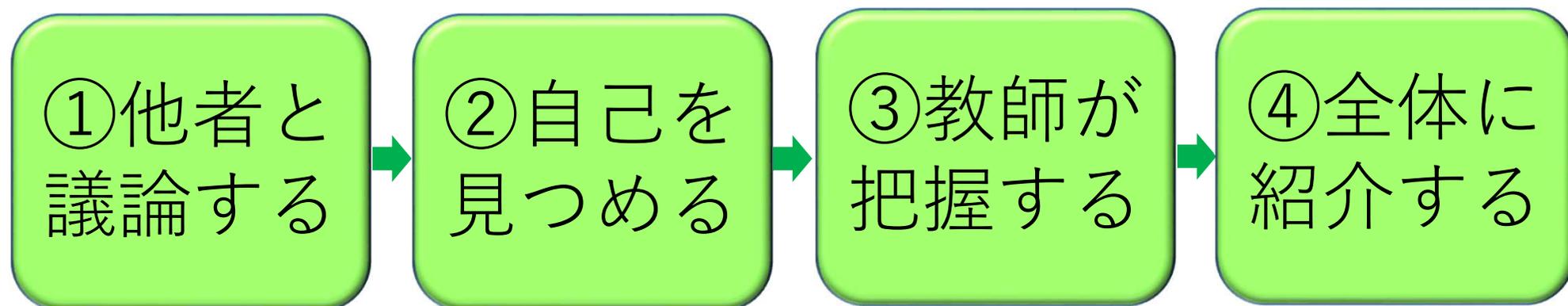
※互いの考えを伝え合ったり、相手の思いを受け止めて話し合ったりすることができる支持的な学級風土が重要となる。
※青字が端末の活用を想定

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、**道徳的諸価値**についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から) **多面的・多角的に考え**、自己の(人間としての) **生き方**についての考えを深める学習を通して、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度**を育てる。

自分自身との関わりの中で深める

他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体が目的ではなく、**多面的・多角的な思考**を通じて、**道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める**。

※自分自身との関わりの中で深める過程の**例**



どの学習場面でどのように**端末**を活用すると効果的か？

自分自身との関わりの中で深める

他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体が目的ではなく、多面的・多角的な思考を通じて、**道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める。**

①他者と
議論する



①「正直、誠実」とは何かについて他者との議論を通して道徳的価値を理解する。

②自己を
見つめる



②自分自身にとって「正直、誠実」は、何を大切にするかを改めて自己を見つめ整理し、端末に考えを表記する。

③教師が
把握する



③教師が端末に入力されたそれぞれの考えを把握・整理し、全体に共有する。

④全体に
紹介する



④子供の考えを全体に紹介する。

※人前で話すことが苦手な児童生徒も考えを示すことが可能となる。

※青字が端末の活用を想定

その他、道徳科の学習指導過程でのICT活用例

段階	学習の目的	主な学習活動	ICTの活用例
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実態や問題を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳的価値について、問題意識をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実態や問題の提示 (画像や映像、グラフ等)
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材を活用して、道徳的価値を理解し、よりよい生き方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身との関わりで考える。 ・ 多面的・多角的に考える。 ・ 自己の(人間としての)生き方についての考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材の提示 (画像や映像等) ・ 自分の考えをもつ (タブレットに示す) ・ 他者の考えを知る (タブレットに共有する) (表やグラフ等) ・ 話し合う(対話) ・ 自己を見つめる (タブレットに蓄積する)
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・ よりよい生き方の実現への思いや願いを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳的価値についての自己実現への意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活の様子への提示 (画像や映像等) ・ 外部の方の言葉への提示 (画像や映像等)

道徳科のICT活用の留意点

目的 は、**道徳性**を養うこと。

そのための**手段** が、**ICT活用**の工夫。

手段 であるはずの**ICT活用**の工夫が、

授業の**目的** になると・・・、

教師主体 の「**活動あって学びなし**」
の授業になる。

**子供
主体**

道徳科の評価

道徳科の授業で見取る児童生徒の評価

児童（生徒）の学習状況や道徳性に
係る成長の様子を継続的に把握し、
指導に生かすよう努める必要がある。
ただし、数値などによる評価は行わ
ないものとする。

道徳科の学習状況の評価の視点の例

道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習

- ・ 道徳的価値のよさや大切さについて考えようとしている。
- ・ 道徳的価値について、一つの見方ではなく様々な角度から捉えて考えようとしている。
- ・ 道徳的価値について、自分のこれまでの体験から感じたことを重ねて考えようとしている。
- ・ 授業で学んだ道徳的価値のよさを感じ、これからの自分の生き方に生かそうとしている。 など

道徳科の評価のための具体的な工夫例

- ・ 児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したもの
- ・ 児童生徒が道徳性を養っていく過程での児童生徒自身のエピソードを累積したもの
- ・ 作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程
- ・ 児童生徒が行う自己評価や相互評価 等

道徳科の評価におけるICTの効果的な活用

児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を**継続的に把握**し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

- ・評価に当たっては、特に、学習活動において児童が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、下記のような点を重視することが重要であり、ICTの効果的な活用が子供たちの学習活動を促すことにもなる。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

- ・道徳科では、子供たちの学習状況について**大くりにまとまりを踏まえた評価**が求められる。
- ・**年間や学期という一定の期間**を経て評価するためにICTを活用することが、子供たちが自己を深く見つめることや教師の負担軽減にもつながる。

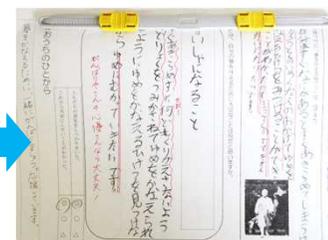
道徳科の評価のための活用例

継続的な授業によって子供の学習状況を見取り、子供がいかに成長したかを積極的に認め、励ます個人内評価を行う。

- ・毎時間の授業記録を**端末に保存していく。**
- ・子供が学びを振り返り、成長の様子を実感する。
- ・教師が子供の学びを見取り、評価に生かす。



自分の考えを端末に保存する



学びの記録を端末に蓄積する



蓄積された記録をもとに評価する